

引いたくじをアタリにする生き方を

臨床心理士・公認心理師

たかぎ のりこ
高木 紀子 氏(高校36期)



1981 府中市立府中第八中学校卒業
1984 立川高校卒業
1988 東京女子大学文理学部心理学科卒業
2000 白百合女子大学大学院発達心理学専攻修士課程修了
2002 白百合女子大学大学院発達心理学専攻博士課程中退
現在 心理士(師)として保育園、小学校、中学校、高校のカウンセラーや、中央大学、白百合女子大学で非常勤講師としてフリーランスで働いている。(2025年3月まで立川高校で6年間スクールカウンセラーを務めました)

■立高時代

入学したころに先輩から言われた「後悔するなら、やらないで後悔するより、やって後悔せよ」という言葉が印象的で、いろんなことに顔を出していました。合唱祭実行委員、執行委員、美術部、3年の1,2学期はキャンパス(体育祭の本拠地となる建造物)の文字盤作りもしました。毎日楽しくて忙しくて、時々頭をかすめる受験のことを振り切るようにいろんなことに没頭していました。

■卒業後のこと

勉強への時間投資が少なすぎたのか、残念ながら第一志望の大学には入れてもらえず、小さな女子大学にふてくされながら入学しました。それでも、学びたかった心理学科に進むことができたのは幸せでした。因みに大学では結構真面目に勉強して卒業時には総代を務めました。大学院に行こうか就職しようか迷った挙句、安定を求めて卒業した女子大の事務職員として就職(ふてくされて入学したのに!)。しかし、向き不向きはあるもので、仕事に適応できず、身体を壊して4年で退職。大きな挫折と敗北感を味わいました。そんな折、私の退職を知ったゼミの先生が異動先の白百合女子大学に呼んでくださり、そこのお手伝いを4年間致しました。東京女子大学の卒業生でもある先生が精力的に仕事をする姿に大いに刺激を受けました。研究室の手伝いをしながら、子どもを二人産んで、三人目がおなかにいる31歳のときに、奮起して大学院受験に挑戦。周りの人からは、「何故そんな大変な選択を?」といぶかしげに言われたものですが、ここでも、「やらないで後悔するよりやって後悔せよ」の言葉に背中を押されました。子どもを寝かしつけてから、受験勉強を半年。入学後も、何とか子どもたちを寝かしつけてからゼミの発表の準備をしたり、論文を書いたりしてましたが、それ自体は苦ではなかったですね。その後、あちこちで心理士として仕事ができるようになり、学者ではなく心理士を生業とすることを決めて、博士課程は退学しました。

■立高生の皆さんへ

立高時代に、是非いろんなことに挑戦してみてください。そして悩んだり考えたりすることは決してカッコ悪いことではなく、大切な時間だということも忘れないでください。どれが正解だろうと最適解を求めたくなりますが、人生のクジにはアタリもハズレも無くて、引いたクジがアタリになるように生きるだけです。私のように第一志望の大学に落ちてしまうのはオススメしませんが、それでも私は、私にとってこれがアタリだったなと思って幸せにやっています。